

NFA理念・ビジョン・重点実施事項

< 理 念 >

サッカーを通して、県民の心身の健全な発達とスポーツ文化の発展に寄与する

< ビジョン >

1. 「サッカーの普及」に努め、多くの人々がスポーツを楽しめる環境を作り上げる。
2. 「サッカーの強化」に努め、長野県代表が全国大会で活躍することにより、県民に夢と希望と感動を与える。
3. 「フェアプレー精神の醸成」に努め、多くの人々に友好の輪を拡げ、健全な社会の発展に貢献する。

< 重点実施事項 >

1. 巡回やサッカー教室、フェスティバルを行い底辺の拡大を図る。また、体を動かすことの楽しさを知って貰い、幼児・レディース・シニアの身体能力向上に貢献する。
2. エリートシステムを構築し、一環指導体制によりタレントを発掘する。
3. U18、U15、U12でのリーグ戦化を推進し、リーグ戦文化の定着に注力する。
4. U12の技術向上を図るため、少人数でのゲーム(8対8、5対5、4対4等)を推進する。
5. サッカー・フットサルともに次代を担うユース審判員を育成し、上級審判員の育成を図る。
6. 意欲があり、情熱溢れる人材を発掘し指導者として育成を行う。
7. 技術の研鑽と精神面の強化を図ると共に社会的弱者に対する思いやりの精神を醸成する。
8. サッカー医学の基礎知識やアップ・ダウン・筋トレやテーピング法の指導を行い、選手の健全な発育を支援する。

< 2015年の達成目標 >

1. Jリーグ及び年代別日本代表チームで10名が活躍している。
2. U-18年代では、北信越プリンスリーグに所属するチームが2チーム以上になり、全国大会出場チームが全国ベスト8になる。
3. U-16国体選抜チームが本国体でベスト8になる。
4. 4種、3種、2種それぞれの年代で、トーナメントとリーグがバランスよく配置され、ゲーム環境が整備されている。

< 課題へのアプローチ >

1. サッカー理解＝プレーの意図・原則(戦術の基本)を個のベースとして向上を図る。
2. ゲームで使えるテクニック(プレーの意図を遂行できる戦術行動を含むテクニック)の習得と「基本」の質的向上を図る。
3. On the ball だけでなく、Off the ball での戦術行動の習得。特に立ち位置(ポジショニング)の理解を進める。
4. 1～3を理解してプレーヤーに伝えるため、指導者のスキル向上をめざす。
5. 「トーナメント」「リーグ」それぞれの良さと意義を理解した上でのリーグ戦の定着。

現状と目指す目標への提言〈方向案〉

- ・サッカー文化を通して豊かで公平公正な社会の創出。社会貢献
- ・競技力の向上・・・競技者を目指すすべてのプレイヤー、特に小学年代、そして指導者→国際試合やjリーグを初め海外のプロリーグの試合観戦を提唱し、選手チームを技術、戦術の手本とし模倣させ技術戦術を習得させる。
- ・サッカーの母国イングランドの諺「サッカーは子どもを大人にし、大人を紳士にするスポーツ」の精神に則り、サッカーを通して素晴らしい人間の育成を図る。
- ・フェアプレー精神の醸成
- ・リスペクトし合える人間の育成。選手、指導者、応援者、保護者全てのサッカー関係者が、相手の素晴らしいプレー、ファインプレーに拍手を送れるサッカーの実現。
- ・指導者の資質の向上・・・本を読む、ゲームを観戦、自ら師範できるようにする。指導法の改善。怒鳴る怒る指導の廃絶。
- ・審判の資質の向上・・・審判力の向上とリスペクトされる審判技術の確立、獲得
- ・課題を抽出し解決することにより長野ビジョンを達成に資する。

委員会	キッズ委員会	担当者氏名	富松清次
<p>●〔現状〕</p> <p>サッカーファミリーの入り口であるキッズ年代は、各4種チームの独自の勧誘活動、地区協会またはクラブチームの保育園、幼稚園巡回指導、キッズサッカーフェスティバルなどが、サッカーと出会う場である。男子のW杯の躍進、なでしこのW杯制覇等メディア露出も多くなり、日韓W杯以来のサッカーファミリーを増やすチャンスの時期と思われる。身近にサッカーと出会える環境作り、県HPのトップページにサッカーと出会える案内コーナーを設け、近くでサッカーが体験できる環境を紹介し、協会としても取り組むことが大事である。</p>			
<p>〔目標〕</p> <p>5～10年後</p> <p>①少子化に伴い、確率的には底辺の拡大は難しいのかもしれないが、ロンドン五輪、2014W杯、2015女子W杯、2016五輪、2018W杯、2019女子W杯の盛り上がりも見据え、県FA、地区FAが協力して、あらゆる地区のすべての保育園、幼稚園へ巡回指導を繰り広げるプロジェクトを確立する。（Jリーグの山雅、AC長野の協力も得ながら）</p> <p>②数年後に「ユニクロキッズフェスティバル」（1日1,000人参加のサッカー大会、アルウィンにて）を実現する。</p> <p>20年後</p> <p>①県内すべての保育園、幼稚園に巡回指導が行きわたり、NFAキッズサッカー公認保育園などの認定を掲示する。そこには必ずキッズリーダーを取得した保育士さんがいることや自由時間に必ず園庭にサッカーボールが10個は転がっていることなどを条件とする。すべての子どもたちが必ずサッカーと行き会う入口を作り上げる。（しかしながら、最終的にサッカーを選ぶかは子どもの自由ではあるが…）</p> <p>②現在、キッズである子どもたちが成長し、20代になって指導者として戻ってこられるような環境作りも必要。（山雅、AC長野で県FAキッズ巡回を受託してもらうことで、若い指導者の雇用創出につなげる）</p> <p>20年以降50年後</p> <p>①この10年で作り上げるプロジェクトが循環化し、Jリーグの山雅、AC長野を支える町スポーツクラブが各地に誕生し、まずサッカーからスポーツをはじめることが文化となる環境にする。今の欧州、南米のように…Jリーグ100年計画が実現する。</p>			
<p>〔目標達成のための具体的な取り組み〕</p> <p>①地区FAまたは専従スタッフのいるクラブチームと連携し、保育園、幼稚園巡回指導へ地域の枠を超えた活動へ展開していく必要がある。（JFAの予算では限界があるので、有料、もしくはスポンサー獲得での活動を目指す。）</p> <p>②特にキッズ活動の遅れている地区へは県FAで支援をし、県全体で保育園、幼稚園巡回指導ができる環境作り。サッカーに興味を持ったキッズが受け入れられる体制づくりも大事なことから、地区の4種チームにはご協力を得たい。</p> <p>③キッズリーダー取得が頭打ちになってきており、今後は地区FAで取りまとめていただいたり、保育園、幼稚園の先生を目指す学校での開催、高校生対象で高校ごとに開催（他県ですで行われている）を行っていくことで、サッカーファミリーの増加にもつながる活動を計画する。（各委員会の協力を得る）</p> <p>④県FA、地区FA関係者すべてがキッズリーダーを取得し、サッカーファミリー増加の為、その入り口である最も重要なキッズ年代の大切さをもう一度認識する必要がある。</p>			

委員会	4種委員会	担当者氏名	安江信輔
<p>〔現状〕</p> <p>①全日本少年大会 予選リーグ敗退。(19年間)</p> <p>②北信越新人戦 北信越5県で長野県のみ優勝チームを出していない。</p> <p>③全日本少年フットサル大会 過去上松SSCが準優勝・木曾選抜がベスト16が4回</p>			
<p>〔目標〕</p> <p>5～10年後</p> <p>①全日本で1次リーグ突破</p> <p>②北信越新人戦で常に優勝を狙えるチームをつくる。</p> <p>③全日本少年フットサル大会で常時ベスト8チームを送り込む。</p> <p>20年後</p> <p>①現在U-10年代以下の選手が長野県の中心選手に成長する。</p> <p>20年以降50年後</p>			
<p>〔目標達成のための具体的な取り組み〕</p> <p>蹴って走るサッカーでは全国レベルははるか彼方である。トレセン大会（木曾選抜大会）において</p> <p>1999年より岐阜東濃トレセン・2005年より山梨峡中トレセンを招聘しパスを細かく繋ぎ組み立てるサッカーを学んで、近年では単独チームでもパスサッカーを目指しているチームが出てきている。北信の昭和FC・NPIC、東信の上田ジェンシャン、中信の木曾FC等目先の勝利にこだわらず、ジュニアユース年代へつなぐチームが増えることによって必ずやレベルアップが図られるものと信じている。</p> <p>①常に関東選抜大会・清水チャンピオンズカップ等レベルの高い大会に県選抜を送り込む。3年前に関東選抜大会で準優勝。4年前に清水チャンピオンズカップでベスト8入りしている。</p> <p>②県外チームとの交流を長野県下すべてで出来るような環境作り。</p> <p>③若手指導者の育成⇒ サッカーだけでなく社会人としてオープンマインドな人付き合いが出来る指導者を増やす。</p>			

委員会	3種委員会	担当者氏名	今井 健輔
<p>〔現状〕</p> <p>長野県の2種が全国大会でなかなか勝つことができない。その原因として3種・4種の取り組みに原因があるのではないかと感じる。具体的に個人戦術のレベルが低い。(止める・蹴る・運ぶ・マークを外す)</p> <p>少しずつ向上はしてきているが、3種の試合を観ても意図的に攻撃をし、意図的に守備することができないチーム・選手が多いように感じる。狙いがなく、一か八かの勝負が多い。また、中体連は教員の移動があるため、継続した指導ができないことが多い。指導者の技能向上も必要だが、地域との連携も大切にしていける必要がある。4種との連携も大切にしていける必要がある。</p>			
<p>〔目標〕</p> <p>5～10年後 全国大会ベスト8以上</p> <p>20年後 全国大会ベスト4以上</p> <p>20年以降50年後 全国大会優勝</p>			
<p>〔目標達成のための具体的な取り組み〕</p> <p>グループ戦術は個人戦術の集合体。個人戦術のレベルアップにむけて、基本が重要だということ意識して、日々のトレーニングをする。</p> <p>試合においても、プレッシャーのある中で、攻防していく。その場の勝ち負けにこだわることも大切だが、どう攻撃しどう守るかということ意識させて試合をする。意図的にサッカーをしていく。</p> <p>そのときの指導者の働きかけがとても大切。どう選手のモチベーションを高めていくか。指導者として、技術面だけではなく、メンタル面の指導もしていける必要がある。</p> <p>指導者のレベルアップ向上のために、できる限り指導者講習などを行っていく。その地区独自の行い方でいいので取り組む。</p> <p>2種—3種—4種での指導者の情報交換の場も提供していく。その中に地域指導者も参加でき情報交換ができると良い。</p>			

委員会	2種委員会	担当者氏名	松本県ヶ丘 西村 繁路
<p>〔現状〕</p> <p>①高校総体、選手権大会での県代表チームは全国大会で勝てない。</p> <p>②高校進学時に県内の優れた選手は他県のユースチームや高校に出てしまう。</p> <p>③その他、技術は低い、メンタル弱い、戦術理解に乏しいなど、課題は山積している。</p>			
<p>〔目標〕</p> <p>5～10年後</p> <p>①全国大会での初戦突破？</p> <p>②選手の県外流出を防ぐ。</p> <p>20年後</p> <p>①全国大会ベスト8？</p> <p>20年以降50年後</p> <p>①全国大会優勝？</p>			
<p>〔目標達成のための具体的な取り組み〕</p> <p>サッカー後進県である長野県においても育成年代の成長は目を見張るものがある。しかし、他県と比較するとレベルの差が広がっているように思える。この問題を解決するために指導者が「他県との違いは何か」「足りないものは何か」など、テーマを決めて現状分析や研究を重ね、種別を超えて今後の方向性を明確に示していくべきである。また、ハード面の充実は欠かせないため、自治体やプロを目指しているチームに働きかけ、人工芝や天然芝の練習場を確保するなどの環境整備も進めていかななくてはならない。</p> <p>< 2種 ></p> <p>① 県内に留まり自分たちで努力することも大切ですが、良いお手本は県外にこそ存在している。指導者も選手も他県に目を向け、足を運び、頭を使ってチームの強化を進める。</p> <p>② ①を解決すること。</p> <p>③ ユース年代まで大事に育てられてきた選手でもそれぞれ課題はある。その内容は技術的なものから性格や精神的なものなど多様だが、指導者は選手の能力や性格を把握し一人一人が更に上達するような指導を実践する。</p>			

委員会	社会人連盟	担当者氏名	小林 克也
<p>〔現状〕</p> <p>近年、県内の社会人に於ける情勢はJFL加盟の2チーム（松本山雅FC・AC長野パルセイロ）により急激な進歩または変化を見せている。特にサッカーが『するスポーツ』というのに加え『観るスポーツ』という部分で目覚ましい発展をしてきている。また各地区において社会人チームを中心とした一貫した組織のクラブチームの台頭により徐々に地域にサッカー文化が根付き始めている。</p>			
<p>〔目標〕</p> <p>5～10年後</p> <p>① Jリーグ（J1カテゴリー）への参戦 競技場に常時1万人以上の集客 → 『観るスポーツ』の益々の発展</p> <p>② 各地域に大人から子供までの一貫したクラブチームの組織づくり → サッカー文化の発展</p> <p>③ 生涯サッカーに携われる環境づくり 選手としてまたは指導者として（地域・企業などで支えていく環境の整備）</p> <p>④ トップ選手の輩出（日本代表など）</p> <p>20年後</p> <p>① Jリーグ優勝・天皇杯制覇及びACL出場</p> <p>② 日本でも有数のサッカー先進県への仲間入り</p> <p>20年以降50年後</p> <p>① ワールドカップ招致？（日本開催時）</p>			
<p>〔目標達成のための具体的な取り組み〕</p> <p>まずは松本山雅FC・AC長野パルセイロの2チームを中心としたサッカー文化の発展に協力をしていく。その中でも『応援する』・『支える』などのサッカーファミリーの拡充として今後は地域・企業・自治体など様々な方面に積極的に働きをかけていく事が重要であり、理解を得ていく必要がある。</p> <p>また、トップチーム・トップ選手の輩出については種別を超えた情報交換並びに協力体制の構築が必要であり、特に上記2チームの協力を得ながら社会人連盟として各種別の方々といっしょに取り組んでいきたいと考えています。</p> <p>長野県を全国有数のサッカー先進県にしていく事、またサッカーというスポーツが地域のコミュニティーの手段となれるようこのビジョン委員会で検討していきたい。</p>			

委員会	学生委員会	担当者氏名	齊藤 茂
<p>〔現状〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 長野県学生サッカー連盟への加盟大学（高等専門学校含む）は4校のみ。北信越大学サッカー連盟への加盟大学は、信州大学（北信越2部リーグ）および松本大学（北信越1部リーグ）のみ。 2. 本連盟が主催する大会は、長野県大学サッカーリーグのみで年1回。 3. 東海・北信越地区の大学選抜への選出はゼロ。 4. 競技レベルの高い選手の県外流出（高校生の関東志向） 5. 高い競技レベルにあり県内の大学に進学しているにも関わらず、高校卒業時に競技生活を終えてしまう選手が少なくない。 			
<p>〔目標〕</p> <p>5～10年後</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インカレおよび総理大臣杯等の全国レベルの大会出場（北信越大会における優勝） ・プロ選手の輩出（地元クラブ等） ・東海・北信越地区の大学選抜への選出 <p>20年後</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国レベルの大会上位進出 ・ユニバーシアード等、年代別代表の選出 ・Jリーガーの輩出 <p>20年以降50年後</p>			
<p>〔目標達成のための具体的な取り組み〕</p> <p>本連盟の選手は、学生スポーツにおける最後のカテゴリーに所属しているため、競技を楽しむことと同時に、その先を意識した育成を行っていく必要がある。すなわち、「競技者」のみならず、「指導者」および「審判員」の育成も視野に入れていかななくてはならない。</p> <p>具体的には、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 加盟大学を増やし、さらにリーグを複数回開催することにより、プレー機会の増加を図る。 2. 指導者育成事業（指導者講習会や勉強会等）を継続的に開催する 3. 3級以上の審判員の育成を積極的に促す（審判委員会とも協力） 			

委員会	シニア委員会	担当者氏名	中和 昌成
<p>〔現状〕</p> <p>長野県の現状と課題： サッカー関連における現在の長野県全域を見渡すと、競技力においても施設面においても全国的に見て立ち遅れていると言わざるを得ない状況である。競技力においては強化・育成の部分で一貫した指導ができていないため選手のスキルに大きなバラつきとレベルの差がみられる。多分に指導者の考え方やレベルの差もあるが、基本的な考え方が統一できていないためではないかと思われる。協会を上げて中・長期的な指導体制の整備が必要と感じられる。県内では現在、松本山雅をJリーグへ昇格させるべく応援、支援をしているが、協会としては長野県サッカーの現状を考えると一旦切り離して考えていくべき問題である。長野県内地域の活性化と長野県サッカーの向上は別問題として捉え、Jリーグチームが誕生することが短絡的に長野県サッカーが成長するという本末転倒的な考え方に陥らないことだ。</p>			
<p>〔目標〕 5～10年後 20年後 20年以降50年後</p> <p>委員会・地域における課題： シニア種は2000年に発足して以来13年目を迎えるが、やっと定着してきた感がある。元来シニア種は普及が中心として考えられ活動してきた。1種社会人選手の受け皿として40歳以上の競技者を対象として、先ず登録を推進し協会の傘下に入ってもらったところから、次に競技者として生涯サッカーを目指してもらうことを主眼として行ってきた。しかし、今後は普及に加えて強化・育成にも力を入れていく方針である。</p> <p>1. 強化</p> <p>①年代別によるカテゴリーリーグ戦の定着 → ナイター設備等の整った環境の会場確保</p> <p>②カテゴリー県代表決定後の環境整備 → 練習会場等の提供、遠征費用の補填</p> <p>③他県シニアとの交流 → 親善試合等を計画し、多くのチーム・選手に参加してもらう</p> <p>2. 育成</p> <p>①ひとつ下のカテゴリーとの情報共有</p> <p>②次年度を見据えた選手確保 → 交流試合等による選手発掘の場を提供</p> <p>③他チーム間で自由にプレーできるようにしてレベルを再確認してもらう</p> <p>3. 普及</p> <p>①生涯スポーツとしての認識の向上 → 「競うスポーツ」との認識だけでなく、「適度な消耗でも楽しめるスポーツ」との認識を与えるためのローカルルールによる大会の設定 公園等に自由に使える貸し出し用ボールの配置</p> <p>②「競技」と「楽しみ」との棲み分け → 競技として全国を目指す大会（チーム）と体を動かすことの楽しみ（健康維持）を目的とした大会（チーム）との分別</p> <p>③観戦、応援の楽しみ → 家族等で気楽に観戦できる環境整備（松本山雅とのタイアップなど）</p> <p>④全国規模競技会の誘致 全国シニア60歳大会・70歳大会等</p> <p>⑤県内各地において親子サッカーを開催し、子供にサッカーの楽しさを教える。</p>			
<p>〔目標達成のための具体的な取り組み〕</p> <p>解決策 or 未来の姿： 理想は、サッカーを通して子供から老人までが楽しくプレーすることと、各カテゴリーで全国に通用すること。中長期的に推し進めていくべきである。夢は長野県が静岡県のようにJリーグから子供の大会までを開催し、地元選手がそこで活躍できるようにすることである。</p>			

委員会	女子委員会	担当者氏名	坂巻 富子
<p>〔現状〕</p> <p>「小学生年代からの底辺拡大」「リーグ戦の創出と再編」など各種取り組みが功を奏し、各年代で登録チーム数が増えているがレベルは全国に遠く及ばない。指導者のレベルアップが急務。1人の指導者が複数カテゴリーを指導し、審判、トレセンコーチまで「人材」が消耗している。指導者不足は深刻である。</p> <p>「サッカーを始めてみたい」という新たなニーズに対して受け皿は十分でない。なでしこジャパンの活躍で要望は急増。女子委員会と各クラブの協働が不可欠。</p>			
<p>〔目標〕</p> <p>5～10年後</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、U-12年代は30チーム、U-15年代は20チーム、高校年代は10チーム、大学は5チーム、社会人は20チームに。県内全域にくまなく分布して活動を展開している。 2、県内4地区でのレベル別リーグ戦環境が整備され、地区トレセンで育成強化の場もできる。U13、U16大会などを定着させてカテゴリーの垣根を取り払い、伸びる時期に選手を確実に伸ばすシステムが構築される。 3、各種大会、トレセンなどに合わせて、女子委員会として指導者講習会を開催し、指導者のレベルアップと情報交換の場がセットで開催される。 4、いくつかのカテゴリー全国大会や代表キャンプを県内に誘致するため、観光施設としても成立するサッカーの拠点施設を建設する。 5、なでしこリーグにチャレンジする全国レベルのチームが登場する。 <p>20年後</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、U-12年代は70チーム、U-15年代は40チーム、高校年代は30チーム、大学は10チーム、社会人は40チームに。県内全域にくまなく分布して、地域NO1スポーツとして活動を展開。 2、温暖化が進む中、夏さわやかな信州は女子サッカーの全国大会の開催適地地になり、各種大会の誘致で、女子サッカーによる地域活性化が注目される。 2、女性の指導者や審判を育てるシステムが確立され、女子クラブのいくつかは日本のトップリーグ「なでしこリーグ」に参入し、活躍する。 3、各年代の全国大会で県内女子チームが優勝する。 4、女子ワールドカップが日本で開かれ、長野県は開催地の1つになる。 5、県内クラブ出身者が日本女子代表に選出され、中心選手として優勝に貢献する。 <p>20年以降50年後</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、女子サッカーは日本の世界のメジャースポーツとして不動の地位を確立する。 2、長野県出身のコーチが全国各地のビッグクラブで活躍し、代表監督を務める。 3、長野県では、幼稚園児からママさん、おばあさんになっても、身近な生活圏内で各種リーグ戦が整備され、健康長寿はサッカーが支える長野県として世界から注目される。 4、各種世界大会を開催する最適地として世界に認められ、地域に大きく貢献する。 			
<p>〔目標達成のための具体的な取り組み〕</p> <p>失敗を恐れず、チャレンジできる長野県サッカーに！</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、各年代別リーグ戦と大会のあり方を徹底的に見直し、選手にとって今何が必要か、かかわるチームの指導者全員が考え、模索する場を作る。失敗をおそれない。変化をこわがらない、革新的でポジティブな長野県女子サッカーの基盤をつくる。人材を教育する。 2、選手の周辺の人たち、保護者や学校関係者、行政マン、他のスポーツ団体など、女子サッカーの周辺にいる人たちが気軽に参加できるイベントや催しを増やす。さまざまなコラボレーションによって女子サッカーの魅力をアピールする。 3、各クラブの成長を促進する講座、セミナーを年数回開き、女子サッカーを仕事にできる社会整備を進める。 4、指導者がいつでも指導者について気軽に学べる場を作る。できれば毎月、開いて勉強すること、レベルアップすることを協力を推奨する。 5、女子サッカーを広く、地域に伝える手段を複数確立し、ネットでつながるファンを増やしながらか、一般の人がもっと気軽にサッカーに親しめるイベントを増やす。 6、県や地方自治体、民間企業など日本や世界にサッカーの連携者を求める。 7、県協会組織の見直し。 			

委員会	技術委員会	担当者氏名	赤穂 好児
<p>〔現状〕</p> <p>2006年に数値目標を設定</p> <p>2015年の目標 Jリーガー・各年代代表に10名選出、U-18のチームが全国でベスト8に U-16国体選抜が全国でベスト8に、日常のゲーム環境としてリーグ戦が定着</p> <p>2009年度 Jリーガー・各年代代表8人 U-18年代1回戦敗退、U-16北信越国体で敗退</p> <p>2011年度 Jリーガー4人、(JFL 山雅4、パルセイロ1)</p>			
<p>〔目標〕</p> <p>5～10年後</p> <p>2015年の目標 Jリーガー・各年代代表に10名選出、U-18のチームが全国でベスト8に U-16国体選抜が全国でベスト8に、日常のゲーム環境としてリーグ戦が定着</p> <p>20年後</p> <p>2011年度（今年度）のカンファレンスまでに目標設定を見直し。</p> <p>20年以降50年後</p> <p>2011年度（今年度）のカンファレンスまでに目標設定を見直し。</p>			
<p>〔目標達成のための具体的な取り組み〕</p> <p>○ユース育成ビジョンの作成と普及。</p> <p>4種年代</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テクニックを獲得させる。基本のベースの引き上げ。基本とは、パス&コントロールだけでなく、関わる（コミュニケーション）、戦う姿勢（ハードワーク）、判断（視野の確保）のこと。指導者・保護者への働きかけとベクトルあわせ。 <p>3種年代</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テクニックを向上させる。動きが速い中、スペースがない中での技術の発揮。トレセン活動を通して指導者のベクトルあわせ。 <p>2種年代</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サッカーのゲーム・プレーの質にこだわる。結果を求めながらも、一つひとつのプレーの質にこだわるサッカーを実現する。 <p>○リーグ戦環境を整える。</p> <p>2回戦総当り。日程のバランス。特に4種年代でのリーグ戦のあり方。</p>			

委員会	国体委員会	担当者氏名	内田信一
<p>●〔現状〕各種別において参加チームが全国ベスト8目標に対して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今段階は厳しい現状、各種別に1回戦必勝を目標に強化すべきである。 ・ 各種別の強化基盤は、U12以下の人材発掘・強化を継続する。全国レベルの選手の育成を続ける。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 少年選抜国体 <ul style="list-style-type: none"> ・ 石川・新潟の選抜は他県からの選手の流入によったチーム編成となっている。まずはこの2県のどちらかを破らない限り目標は達成できない。 2. 女子はパルセイロが中心、県外に出て行った選手の受け皿は、今のところある。 3. 成年は即戦力JFL・HSLへ県外出身選手の増加による国体への参加が増加している。また県内出身者の強化も重要な課題である。 			
<p>〔目標〕</p> <p>5～10年後</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各種別において参加チームが全国ベスト8目標 <p>20年後</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各種別において参加チームが全国ベスト3目標 <p>20年以降50年後</p>			
<p>〔目標達成のための具体的な取り組み〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 少年選抜国体 <ul style="list-style-type: none"> ・ 石川・長野2県はほぼ単独的になっていることから、U16長野選抜は4～7月に集中した練習・ゲームによるチーム完成度を上げることが必要。ただし取り巻く環境の改善（週2回くらいの練習をするための専任スタッフ（自分の高校を掛け持たないでできること）、施設問題、代表へ送るチームの協力など課題が大きい。 ・ 違う考え方として、単独校＋補強選手方式による参加もありえる。（ただし課題として技術委員会によるU-15の強化方針とは別の方向性となってしまう。） 2. 女子 <ul style="list-style-type: none"> ・ U12の育成とその後の強化が課題。 ・ パルセイロ＋県内有望選手のピックアップによる強化。 3. 成年男子 <ul style="list-style-type: none"> ・ 強化期間が短期間であるため、JFLやHSLの選手を融合した効果的な練習・合宿が課題。 ・ リーグの過密化から、選抜スタイルを単独＋補強型へ変更も視野に入れる。 			

委員会	審判委員会	担当者氏名	窪 修一
<p>〔現状〕</p> <p>毎年、200試合以上の試合に延べ700人以上の審判員の派遣と80回以上の各種講習会の開催、上級（1・2級）、一般（3・4級）、ユース、女子審判員の育成、強化、指導、インストラクター（1・2・3級）の育成、強化など等、片手間で出来る仕事量ではなくなって来ています。審判員の増員や質の向上、講習会のあり方や内容など課題は山積みですが、今の現状を維持するのが精一杯なのが正直なところ。5年後、10年後、20年後…の目標を立てる前に、しっかりとした体制作りが急務と考えています。当面は審判部の立ち上げと人材確保を目標に活動して行きたいと思えます。</p> <p>また、最近ユース選手の審判に対する暴言での退場者が増えています。長野県の審判のレベルは決して高いとは言えませんが、まだまだいろんな意味で審判への理解不足の方が多々見受けられます。こう言った事にも対応していかなければならないのですが、審判委員会だけでは対応できないのが現状です。</p>			
<p>〔目標〕</p> <p>5～10年後 目標に関しましては大変重要なことですので、今後時間をかけて審判委員会の中で議論していきたいと思えます。当面は審判部の立ち上げと審判員およびインストラクター登録8,000人を目標。</p> <p>20年後 未定</p> <p>20年以降50年後 未定</p>			
<p>〔目標達成のための具体的な取り組み〕</p> <p>今後2年を目処に順次各種講習会内容の検討、見直しを図り審判員及びインストラクターの増員に繋げる。</p>			

委員会	規律・フェアプレー委員会	担当者氏名	武内 英郎
<p>〔現状〕</p> <p>各種別の連携が不十分であり、出場停止や累積警告による出場停止もバラバラであったりする。JFA規約・規定を各種別の委員長が把握して理解を深める。</p> <p>フェアプレーの精神を理解した上での行われなかったゲームも幾つかあり、特に、トーナメントの勝ち上がりによって退場者が多くみられる。チーム、選手、関係者だけでなく、応援の保護者にもフェアプレー精神を深めて欲しいケースもある。</p>			
<p>〔目標〕</p> <p>5～10年後</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規律・フェアプレー委員会として組織を充実させるために、各種別の連携を深める。 ・北信越エリアでの情報交換を実施する。 ・判例を題材に委員長がディスカッションを行う。 ・フェアプレー賞対象のチームを大会を通じて評価し、それをチームに積極的に贈る。 ・各大会の視察を行い、「規律・フェアプレー委員会としての報告書」を作成する。 <p>20年後</p> <ul style="list-style-type: none"> ・審判委員会と共有できる企画を実現し、ゲームでの公正さを分析する。 <p>20年以降50年後</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さらに、改革を進める。審判委員会と共有できる企画を実現し、ゲームでの公正さを分析する。 			
<p>〔目標達成のための具体的な取り組み〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規律・フェアプレー委員会議を定期的で開催する。年2～3回を目安。 ・北信越国体の時期に北信越エリアの情報交換を行い、年度ごとの目標を設定する。 例) 年度の種別ごとの出場停止選手のファイルを作成。 ・各大会の事前に行われる、代表者会議、総会、顧問総会などで規律フェアプレー委員会の取り組みや基本姿勢を伝達する。 			

委員会	施設委員会	担当者氏名	宮下 寛
<p>〔現状〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. JFL以上の公式戦が行える施設がアルウィンほか数箇所しか存在しない。また、アルウィン周辺の深刻な駐車場不足および公共交通機関からのアクセス不良。 2. 芝生グラウンド（人工芝含む）の絶対的個数の不足。 3. 各地域における裾野的グラウンドの設備（ゴール等）の整備不足。 			
<p>〔目標〕</p> <p>5～10年後</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. アルウィン周辺における施設整備（駐車場および施設拡充）。 2. 南佐久郡川上村のフットボールパークの整備実現。 <p>20年後</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. アルウィン周辺の総合的なインフラ整備の完了。 2. 川上村フットボールパークでのJFA主催事業の定例化。 3. 県内、芝生グラウンドの箇所数が150箇所を超える。 <p>20年以降50年後</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ドーム型専用球技場（3万人以上収容）建設—完成。 2. 県内、芝生グラウンドの箇所数が200箇所を超える。 3. 県内どこの公園にもキックボード備え付けの芝生スペースの完備。 			
<p>〔目標達成のための具体的な取り組み〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 長野県5か年計画への要望書提出（6月末提出済み）。 アルウィン周辺の土地利用について概要を提案。今後関係部署と調整予定。 2. 川上村フットボールパーク計画資料作成。 川上村長の意向により提案書を作成しJFAに提案（丹羽会長—窓口）。 3. 各地域裾野的グラウンドへのゴール配備（毎年実施—継続中） 			

委員会	医事委員会	担当者氏名	奥田 真央
<p>〔現状〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スタッフは、Dr.1名、トレーナー部10名。 他、信州大学整形外科および関連病院の医師および長野県在宅看護職の会の看護師が協力 ・活動は、各種大会の会場Dr.の派遣と会場トレーナーの派遣、公認C級D級講習会への講師の派遣。 ・3-4年前に比べれば、活動自体は定着してきた。 ・もっと影響力のある活動、スポーツ傷害への啓発活動は今後の大きな課題である。 ・栄養面、心理面に介入する準備が出来ていない。 			
<p>〔目標〕</p> <p>5～10年後</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ外傷・障害におけるパンフレットもしくはリーフレットを作成し、配布する。 ・技術委員会とリンクした活動により指導者から傷害予防が啓発できるようになる。 例：トレセン帯同トレーナー、指導者講習会（ポイント付帯）の開催 ・栄養士、心理士のスタッフに入る組織づくりを進める。 ・協力医師および看護師の協力体制を整える。 ・4地区に医事委員会の活動拠点となる病院、施設、スタッフを固定する。 （・JFAにトレーナー組織が立ち上がり、全国的な連携が図れている。） <p>20年後</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ傷害で苦しむ選手が少なくなり、指導者が医事に関する知識・技術を習得できている ・拠点病院、施設、スタッフによる各地域での医事活動が盛んに行われている。 <p>20年以降50年後</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長野県の医事が日本の医事の手本となっている。 			
<p>〔目標達成のための具体的な取り組み〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状は時間を惜しんでいる部分がある。時間を惜しまず、取り組めば1年以内には大きな動きが出来る。 ・スタッフの数も増やすのではなく、質を高めていくようなスタッフ研修会を定期的に行っていく。 ・やはり、経費の問題は活動の妨げになることは否めない。どうするかは、もっともな課題。 			